名前の由来と史跡と文化財

八幡地区

飯香岡八幡宮

上総の国いちはらの歴史を知る会

（ふるさと市原をつなぐ連絡会会員）

令和３年３月編集・製作

まえがき

人類は、今から７００万年前にアフリカ大陸でサル類（チンパンジー）から枝分かれして「二足歩行の人類」となった。その後徐々に進化し約１０万年前に一部の人類がアフリカを出ていくつかの人種に変化し大陸に住み着きました。

旧石器時代（先土器時代・無土器時代）～紀元前１万４千年前頃、我が国にも大陸から渡り来て住み着いたと思われます。その頃の日本列島はユーラシア大陸と地続きであり、彼らはマンモスやナウマン象、大角鹿などの大型動物を追いかけて日本列島にやってきた。食料調達には、主に狩猟や採取を行い、石を打ち砕いて造られた打製石器を使用した。食器などはなかった。

私たちの住みます「いちはら」にも人が住み始めて３万年の歳月が過ぎ、いくつかの大規模な集落が出来てきました。そして弥生時代になると大陸から稲作が持ち込まれ、肥沃な土地では稲作が行われるようになり、権力者による統治が始まった頃と思われます。その中で、大変興味深い説があります。縄文時代の頃に、日本列島に太平洋南方より現ポリネシア語（マオリ語）を話す民族が渡来し、住み着いた人たちが初めて地名を付けたという説です。それらの古い時代に付けられた今とあまり変わらない発音で、今も多く使われています。その中でも「古事記」や「日本書紀」などの古典や日本語の中にも、多くの現ポリネシア語源の言葉を見ることができますが、文字で表すものはありませんでした。

しかし弥生時代になると朝鮮半島より渡来した人により漢字が伝わって来て、今まで言葉で伝えられていた呼び方に、適当な漢字を当てはめたものです。例えば、日本の象徴の山「富士山」は、マオリ語では「フチ（ＨＵＴＩ）「引き上げられた山、または釣り上げられた山」という意味となります。そして、浅間神社は熊野神社と並び最古の部類の神社と思われますが、富士山の神を祀る「式内富知（ふち）神社」が最も古い神社と思われます。

縄文時代には、争いごとは少なかったと言われていますが、水稲耕作が始まった弥生時代になると「定住民」が増えることにより、土地の利権争いが起き、古くから住んでいた縄文人は弥生人に圧倒されることになった。但し、古くからあった地名すべてが「現ポリネシア語（マオリ語)」という訳ではありません。

北海道には「アイヌ民族」のアイヌ語があり、沖縄には「琉球民族」が話す「琉球語」が存在する。

また、それぞれの地方には「方言」があり、その地方特有の言葉があります。

参考ですが、古来より「サ」が付いた名には「神様」に関係したものが多く見られます。

例えば、神社の敷地内は「境内（ケイダイ）という聖域と一般の地を分ける「さかいめ」があり、神様が山から「さと（里）に下ってくる道を「さか（坂)」と言います。また、祀りの際の神様の貴賓席を「さじき」と呼び、庶民は地面の芝に座ったので「芝居」という言葉が生まれたと言われています。

今回は、上総国市原郡内の中央部に位置します「八幡地区」の地名の由来と、その地にある史跡や文化財などを紹介します。

市原郡内の八幡地区の地名の由来

千葉県の地名の由来

千葉県は江戸期までは総国（ふさのくに）と呼ばれており、茨城県南西部の一部と埼玉県東部の一部も含まれていました。この地域は７世紀後半の令制国の建置により、上総国と下総国が成立しその後養老２年（７１８年）に上総国から４郡が分かれ安房国が誕生した。

「総」の語源は、「古語捨遺」によると、「天富命（あめのとみのみこと）」が安房国から斎部氏を率いて東上し、麻を植えたところ、良い麻が生えたので、総（麻）の国としたという説と、「風土記逸分」によると「総」とは木の枝を言い、昔この国に大きな数百丈のクスの木が生えていたが、大凶事との占いが出たので切り倒したところ、南に倒れたので、上の枝を「上総」と言い、下の枝を「下総」と言ったと記されているが、いずれも根拠が弱く、他にも「塞ぐ」からで「山などが周囲にある土地」や「ふし」の転訛で「高い所」の意味する説などがあるが、現在では朝廷の都に近いほうが上であり「上総」と付けられたという説が正しいと考えられる。

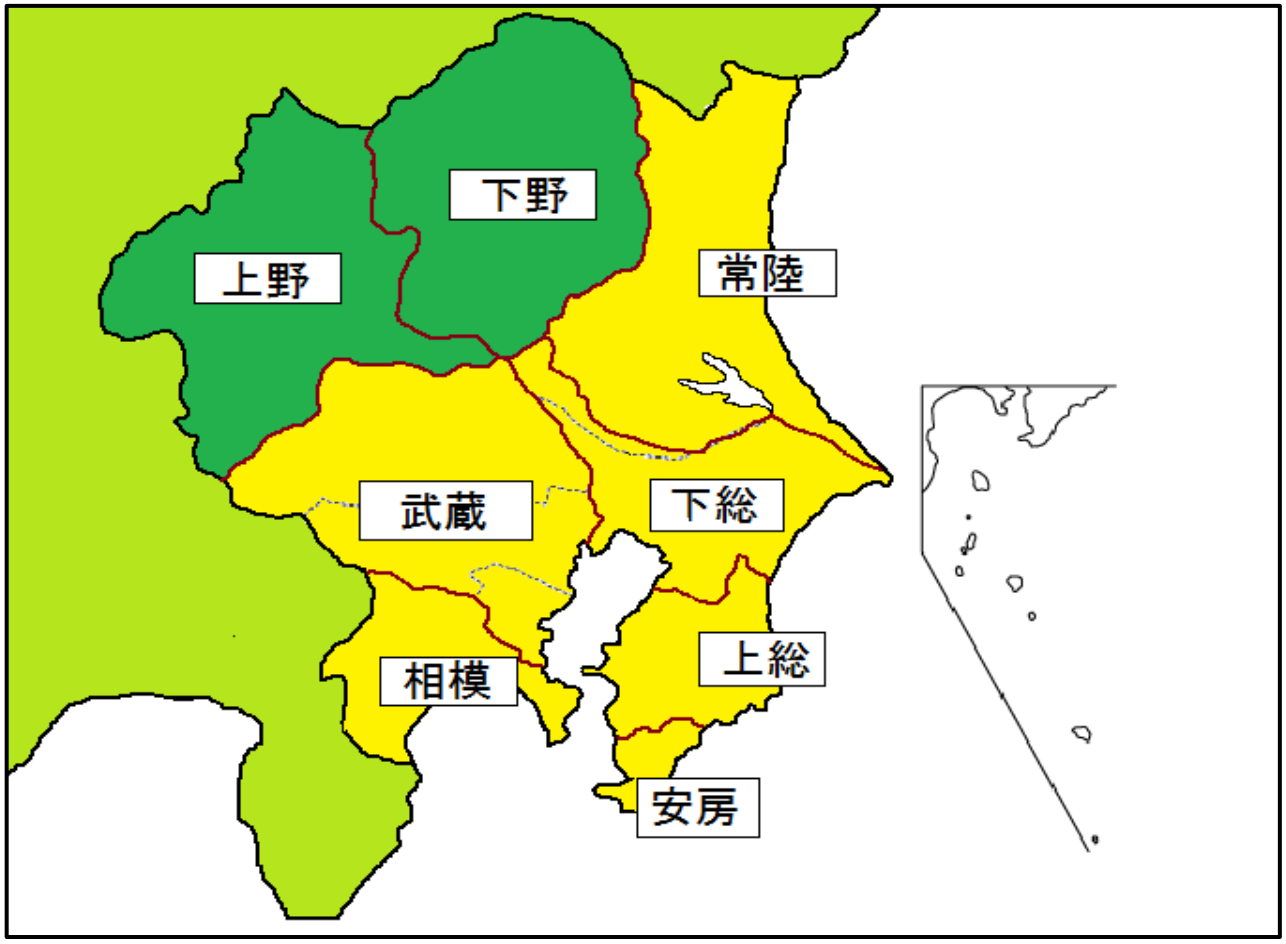
なお、「ふさ」はマオリ語で「フ・タ」で、「浸食された丘陵がある地域」の転訛と訳します。

「和名抄」に、下総国相馬郡布佐（ふさ）郷があり、現我孫子市東端の布佐の地域と思われる。

上総国には、市原（国府所在地）・海上・畔蒜（あびる）・望陀（もうだ）・周淮（すえ）・天羽・夷隅・埴生・長柄・山辺・武射の１１郡がある。

下総国には、葛飾・千葉・印旛・埴生・匝瑳・海上・香取・相馬・猿島（さしま）・結城・豊田の１１郡が、安房国には、平群（へぐり）安房・朝夷（あさひな）・長狭の４郡で国造りがされた。

市原郡は「伊知波良」と書き、中世には市西郡と市東郡に別れ、山田郡も郡域内にあったと思われます。国府の所在郡でもあり郡内には、海部（あま）郷・市原郷・湿津郷・江田郷・菊麻郷・山田郷の６郷があった。江戸期には、このほかに、海北郷・佐是郷など、旧海上郡域も併合された。



市原

市原市の地区別地図

020/9/26
行政区-scaled.jpg (1829×2560)
八幡
五井
八幡海岸通り
八幡公民館
古市場
五井海岸
五井南海岸
岩崎
五井
八幡
菊間
菊間コミュ
ちはら台コミュ
瀬又
五所
白金町
大厩
草刈
玉前
五井
市原
山木
辰巳公民館
番場
高田
玉前西
君塚
西野谷
五井公民館
藤井
都本
門前
久々津
下野
永吉
市東
中野
高倉
千種海岸
千種
松ヶ島
出津
村上
平田
惣社
市原
能満
潤井戸
市津公民館
湿津
東国吉
青柳
飯沼
神崎
喜多
島野
野毛
国分寺台
山田橋
古都辺
奈良
金剛地
千種コミュ
今津朝山
廿五里
国分寺公民館
小田部
萩作
姉崎海岸
西広
山倉
業木
大作
犬成
柏原
町田
柳原
西野
権現堂
市西
姉崎
姉崎
東海
十五沢
糸久
大坪
海士有木
福増
勝間
滝口
市津
姉崎
畑木
海保
今富
宮原
神代
海上
相生
相川
新堀
武士
姉崎公民館
迎田
片又木
引田
分目
浅井小内
椎津
磯ヶ谷
安須
山田
大桶
高坂
松崎
養老
三和
有秋公民館
不入斗
立野
日市場
三和コミュ
風戸
土宇
深城
豊成
中高根
天羽田
川在
櫃狭
新巻
馬立
上高根
戸田コミュ
上原
妙香
堀越
戸田
南岩崎
佐是
奉免
南総
寺谷
牛久
牛久
米沢
真ケ谷
宿
市場
原田
島田
内田
南総公民館
安久谷
栢橋
西国吉
中
江古田
石川
奥野
皆吉
池和田
薮
矢田
鶴舞公民館
大蔵
岩
外部田
鶴舞
水沢
田尾
駒込
久保
永田
山口
養老
大和田
山小川
高滝
加茂公民館
新井
平蔵
本郷
小谷田
加茂
平野
古敷谷
吉沢
堀切
大戸
富山
平三
万田野
飯給
小草畑
米原
柿木台
徳氏
里見
田淵
菅野
月崎
月出
柳川
白鳥公民館
国本
石神
大久保
折津
朝生原
石塚
白鳥
戸面

市原郡内地名の由来と神社、仏閣、史跡、文化財の紹介

※ アンダーライン部は、古代マリオ後（現ポリネシア語）での表現を日本語に転化したもの。

上総国市原郡の６郷

１・海部郷（あまのごう）

平安期にあった郷で、高山寺本の訓は「安万」東急本は「阿万」と呼ばれており、海士有木に比定されている。漁業、航海を中心とした職業的品部に由来する地名。

２・市原郷（いちはらごう）

平安期にあった郷で、市原・能満・門前・郡本付近に比定されている。地名の「イチ」は集落の意味、または「稜威」（いつ）の転嫁で美称か。櫟（いちい）の繁茂する原野の意味とする説もある。

※藤井は、万治２年（1659 年）に郡本より分村したのと、山田橋は元は山田郷に属していたので、市原郷には含まれなかった。

３・湿津郷（うるつごう）

平安期にあった郷で、高山寺本の訓は「宇流比豆」、東急本では「宇留比豆」。市原市潤井戸付近に比定される。地名の由来は、「ウルヒ（湿）・ツ（場所）」と考えられる。村田川の上流で、豊富な涌泉があることから命名された地名と思われる。

４・江田郷（えだごう）

奈良期にあった郷で、高山寺本・東急本ともに訓は「衣多」。市原市吉沢付近は古くは江田郷と称したと伝えられ、当郷の比定と思われる。他に、市原市八幡付近や市原市江古田などを含む養老川上流右岸の広大な地域を郷域としている。

５・菊麻郷（くくまごう）

平安期にあった郷で、東急本では「菓麻」と書く。訓は、高柳寺本・東急本ともに（久々万）。

市原市菊間付近に比定されている。地名の由来は、「くくまった（包み込まれたような）・地」の意味

６・山田豪（やまだごう）

平安期にあった郷で、東急本の訓は「夜万多」。市原市山田付近に比定されている。

地名の由来は、「山を開いて田を作ったところ」の意味か、「山間の田」あるいは「山処（やまど）」の転嫁で、「山のある処」とも考えられる。

八幡地区　（五所・八幡・山木）

概説

八幡は、古くは江田郷の一部として浜野と同郷で伊静（いしずか）と御影（みかげ）という二つの地区から成ると伝えられ、その後孝徳天皇の時代（６４０年代）に市原郷に国府が置かれ、一国一社の国府八幡宮が創設され以来国府の地の繁栄と共に、神社を中心に発展したことから、この地域を八幡郷と称するようになった。戦国時代には、上総と下総を分ける村田川河口(古代は、この辺りを手長の浜と呼ばれた)に位置していたことから、しばしば権力争いの舞台となり、千葉一族の八幡合戦場跡や、当時の戦死者を埋葬したという「胴埋塚」が残っている。江戸時代に入ると八幡、五所、山木に分割され、旗本領、寺社領などとして支配され、明治維新を迎えた。五所は、かつて「八幡」と呼ばれていた時代があった。「飯香岡八幡宮由緒本記」によると、天文７年に足利義明が国府台合戦により戦死したことにより、義明の居城であった八幡御所に由来し、五所と地名を改めたとされている。また、「五所金杉村」と称していた時代もあった。この金杉とは、天明年間（１７８０年代）に江戸金杉村の住人２名（荘左衛門と坂本村の又兵衛）が五所地先の海岸に塩田を開き、この地先を「金杉新田」と名付けたことに由来する。

この地域は、明治元年１１月に菊間藩に編入、水野忠敬の支配地となった。明治４年廃藩置県により宮谷県となり、さらに同年８月に府県廃合が実施され木更津県に統合され、明治６年に千葉県なった。

この間、明治５年には八幡郵便局が設置され、明治８年には市原警察署の前身である「千葉県取締所」が置かれ、所轄区域は市原・五井・姉崎・市津・三和までに及んだ。明治９年には、区制の実施により上総国市原郡（現市原市）が大区となり、「大区役所」が置かれた。

明治１１年、郡制施行によって市原郡と称する地方自治体が生まれ、郡役所が八幡に開庁するなど、常に市原の中心地として位置づけられていた。

明治２２年、八幡、五所、山木が合併し八幡町と称し、町役場を八幡に設置した。

昭和３０年に八幡町と菊間村は、相隣地として人情、風俗、習慣が共通し、相互依存の関係が密接であった事から合併し、翌年市町村の一部（市原・門前・郡本・西野谷・藤井・能満）が編入して市原町となった。

昭和９年当時の八幡町の鳥瞰図

戦前の八幡町鳥瞰図。「歴史散歩」の主会場となる青少年会館は左上つりぼり周辺。隣の運動公園先には「八幡海水浴場」の旗が翻っている（松井天山『千葉県八幡町鳥瞰図』成田山仏教図書館所蔵）

五所　（ごしょ）　神社・寺院・史跡文化財・城址　若宮八幡社・白幡神社・大宮神社・日吉神社磯邉神社
・稲荷神社・神明神社・満蔵寺（真言宗豊山派）・八幡御所跡

御所とも書く。江戸期は五所村。八幡村から分村して成立。

地名の由来は、戦国期に足利義明（八幡公方で、後の小弓公方）の御所が置かれていたことにちなむ。

御所跡は、金杉川下流北岸の今井家付近と推定されている。「こじ（抉じ）・う（～になっている場所）」の転訛で、浸食されている地という意味。

若宮八幡神社（わかみやはちまんじんじゃ）（別名荒地八幡宮）

所在地　市原市五所字下田４７４番地

創建時期　白鳳時代か？。

祭神　誉田別命・大鷦鷯命

宮司　市川　一夫

由緒・伝説　創建年代不詳。伝承によると飯香岡八幡宮の元宮社地という。境内の近隣に神明神社・大宮神社・日吉神社・白幡神社・春日神社天満宮他２社が祀られている。

五所若宮八幡神社の本殿の社

「八幡宮御伝記」によると、この地の中村・浅野・中島の３名は、阿須波神社に旅の安全を祈願して九州の宮崎八幡宮に参拝した。その際この八幡大神を是非とも郷土にお祀りしたいと願いひたすら祈っていると、ある夜夢の中でお告げを受けたという。それによると神宝と柳の楯を授けられ、速やかにこの地を去るように言われた。三人はこの柳の楯を筏にして神宝を乗せて、袖ケ浦の浜に着くように祈って海に流した。その後三人は帰路を急ぎ阿須波神社にお参りをして、青野が原に至ると、海岸の葦の間に光が見えた。近寄ってみると、九州で流した神に宝であったので、まず最初に藤潴岡に仮の御殿を営み祭祀し、その後現在の場所に宮を移したという。

また「飯香岡八幡宮由緒本記」に記載される異伝によると、神社より神像を奪い去られたとされ、追っ手に迫られたので五所まで海を流れ着いてほしいと祈って、神像を海中に流した。神像は三人より先に御所の浦まで流れ着き夜な夜な光を発していた。三人は帰国して網で神像を引き上げ、五所の地に祀ってその場所を「元八幡」という。そこから、現在の八幡へと遷座させた。その為、五所の人が到着しないと神輿が出せないと言われている。

境内入口の鳥居。奥に本殿が

境内入口にある神社の標柱石

神社の歴史を記した石碑

五所白幡神社　（ごしょしらはたじんじゃ）

所在地　　旧市原郡八幡町五所金杉字居下

創建時期　　天文８年（１５４０年）

祭神　　源朝臣頼朝公

宮司　　市川　一夫

由緒・伝説　足利義明が戦死したのちに館跡に建てられた社。

白幡神社の本殿の祠

神社の本殿右側の写真

本殿正面入口の写真

境内にある道祖神の石祠

八幡御所　（やはたごしょ）

所在地　　市原市五所　ジョイフル本田の裏の白幡神社境内

創建時期　　永正年間

築館者　　足利　義明（小弓公方）

説明　　小弓公方足利義明が小弓城に入る前に一時館を構えた所が五所にあります。ジョイフル本田の裏に白幡神社があり、その小さな境内に社殿再建記念の石碑があります。その石碑に記されて碑文には足利義明公が、永正１４年（１５１７年）小弓に自立する以前にこの地に館を構えて八幡御所と称したと書かれています。

当時は、小弓城の原胤隆と真里谷城の武田信保は領地争いを繰り返していた。そこで、武田信保は、戦いを有利にしようと永正１４年に、古河公方御所の足利高基の弟で、下総下川辺庄高柳の高柳御所部に居た足利義明を招請し、その時に住んだ館が八幡御所と呼ばれている。

その後、大永元年（１５２１年）に足利義明は小弓城に移った。

八幡御所の跡地を示す石碑

春日神社　（かすがじんじゃ）

所在地　　市原市五所字居下１６１６番地
創建時期　不詳
祭神　　天兒屋根命
宮司　　市川　一夫
由緒・伝説　創建年代、由緒不詳。
境内に富士山大神（石碑）御嶽神社（石碑）がある。

春日神社の本殿の建物

境内入口の鳥居と奥に本殿

天神社（左）八坂神社（右）の社

御岳神社と富士山大神の石碑

日吉神社　（ひよしじんじゃ）

所在　　市原市五所字居下１６３０番地付近
創建時期　不詳
祭神　　於保屋満久比命
宮司　　市川　一夫
由緒・伝説　創建時期・由緒不詳。

日吉神社の本殿の社

鳥居と奥に本殿

本殿の正面と入口の上に扁額

大宮神社　（おおみやじんじゃ）

所在地　　市原市五所字居下１５６５番地付近
創建時期　不詳
祭神　　大宮売命
宮司　　市川　一夫
由緒・伝説　創建時期・由緒不詳

大宮神社の本殿の社

境内入口の鳥居と奥に本殿の社

本殿の右側を撮影

本殿の左側を撮影

磯邉神社　（いそべじんじゃ）

所在地　　市原市五所字明神１７４０番地１

創建時期　　不詳（江戸期と思われる）

祭神　　塩土老翁命

宮司　　市川　一夫

由緒・伝説　創建時期不詳。江戸時代にこの地に塩造り
の職人集団が移住してきて住んだと言われ、
その守り神として祭られたという伝承がある。

磯部神社の本殿の社

磯邉神社の鳥居と奥に本殿

本殿正面と上部の扁額

以前ここは弁天池を示す石碑

稲荷神社　（いなりじんじゃ）

所在地　　市原市五所４０番地（２）及び１６２０番地（１）

創建時期　　不詳

祭神　　稲倉魂命

宮司　　市川　一夫

由緒・伝説　不詳

五所稲荷神社の１の祠

五所稲荷神社の（１）の祠左側

五所稲荷神社（２）の鳥居

五所稲荷神社（２）の祠

神明神社　（しんめいじんじゃ）

所在地　　市原市五所１６３９番地

創建時期　　不詳

祭神　　大日孁貴命

宮司　　市川　一夫

由緒・伝説　不詳

五所神明神社の本殿

五所神明神社の鳥居、奥に祠

神明神社の左側写真

神明神社右側写真

大宮山満蔵寺　（おおみやさんまんぞうじ）　真言宗豊山派

所在地　　市原市五所１５３５番地

創建時期　　江戸期

本尊　　不詳

住職　　石川　光盛

由緒・伝説　能満釈蔵院の末寺。市原四国八十八か所霊場の６９番札所となっている。以前には密蔵院と明照院があったが、大正１０年に、満蔵寺に合併された。

満蔵寺の本堂、手前は庫裡

本堂入り口の大宮山の篇額

遍路姿の弘法大師像と大師堂

満蔵寺本堂内部の祭壇

山木　（やまき）　神社・寺院・史跡文化財・城址　　白幡神社・妙栄寺（日蓮宗）常徳院（神事真言宗）

白船城跡・木造聖観音菩薩坐像（市指定文化財）

江戸期は山木村。字城ノ内には、文明年間（１４６９年~１４８７年）に市原備前守が拠したと言われる白船城がある。地名の由来は、「や（谷津）・まき（曲）」で、山裾の曲がった所にある湿地という意味。

白幡神社　（しらはたじんじゃ）

所在地　　市原市山木字本郷２４３番地

創建時期　　江戸期の天保年間

祭神　　誉田別命（源頼朝とも）・神紋　左三つ巴

山木白幡神社の拝殿と石灯篭

宮司　　小田　千里

由緒・伝説　旧村社・男千木。創建年代。由緒不詳。

本殿は明治年間に火災に遭ったが再建され焼失をま逃れたものは現在本殿内に保管されている。

白幡神社入り口の鳥居と参道

拝殿入口に掲げられる扁額

拝殿（左側）の奥に本殿が

金毘羅大権現の石碑

天保１０年に奉納の手水鉢

神社の祠を保管する建物

長立山妙栄寺（ちょうりつさんみょうえいじ）　日蓮宗

所在地　　市原市山木９４３番地

創建時期　　安和２年（９６７年）に創建

本尊　　不詳

住職　　近藤　良雄

由緒・伝説　「市原郡誌」によると、安和２年（９６７年）に創立。釈迦如来が本尊であることから、当初は天台宗の寺院で「明楽寺」であった。日蓮宗寺院大観によると、延享２年（１７４５年）大本山池上本門寺から来た本成院日念上人により日蓮宗に改宗された。弘化３年（１８４６年）、住職不在時に本堂焼失。その後、深川浄心寺日が本堂を再建。年代不詳ですが「妙栄寺」と改められている。昭和５０年に若宮団地造成に伴い、境内の墓園の整備拡充を図ると共に、天満宮や道祖神、三山様を遷宮安置している。

妙栄寺の本堂正面

本堂右前には日蓮上人像

妙栄寺本堂入口にある扁額

本堂の中の祭壇。

常徳院　（じょうとくいん）　真義真言宗

所在地　　市原市山木６３７番地

創建時期　不詳

本尊　　不詳

住職　　岡島　文聖

由緒・伝説　創建年代は不詳ですが、本尊の木造聖観音坐像が彫られたのが鎌倉期と言われているのでその頃には創建されていたと思われる。市原四国八十八か所霊場の８３番札所となっている。また、本尊の「木造聖観音菩薩坐像」は市原市の重要文化財に指定されています。

常徳院の本堂の全景

本堂入口にある常徳院の篇額

石仏を集め安置している建物

月山大神の石碑と鳥居

木造聖観音菩薩坐像　（市原市指定有形文化財）

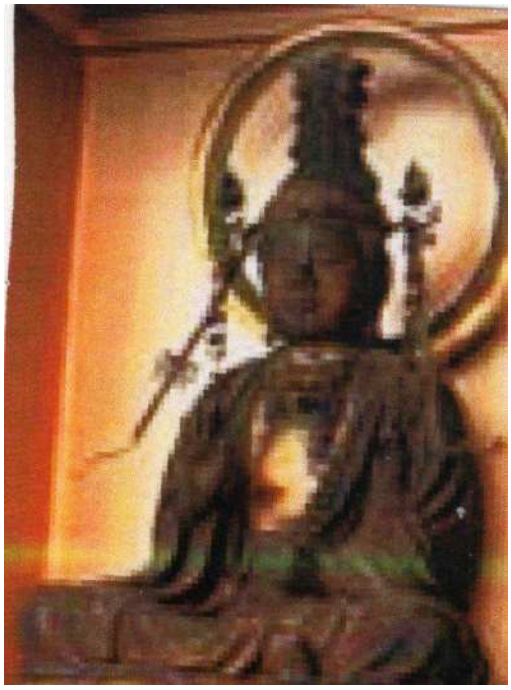
所在地　　市原市山木５８２番地

所有者　　常徳院

種類　　彫刻

説明　　本像は像高５２，７ｃｍで、玉眼、肌部分には漆箔が施されている、像の表面の塗りが厚くまた、底部全体に布張りされているため、材質、構造等は不明ですが、表面観察からは割矧ぎ造りと考えられる。

像の姿は髻（もとどり）を高く結い、衲衣の上に袈裟をまとい、右足を外に外して安坐してます。左手の持物は失われていますが、もとは蓮華の茎を握り、これに右手を添える姿であったことと思われます。木像のように、背中をまるめた姿勢をとり、うねりのある衣文をおおらかに刻む像は、鎌倉地方を中心とした宗風様式の作風を受け継いでいます。ただ、伏し目の面差しや、やや緊張感に欠ける肉どりから、その造られた年代はさらに下がり、１４世紀半ば頃と考えられます。



このような作例は、鎌倉文化を受け入れた宗風彫刻の正統を受け継ぐ初期のものとして県内でも稀な作品であり、本市の中世における彫刻史上、また文化史の面からも貴重なものとして評価を受けています。註　この説明文は案内掲示板を複写したものです。

聖観音菩薩坐像の安置堂

観音菩薩堂と記された扁額

市指定有形文化財の説明看板

白船城址　（しらふねじょう）

所在地　　市原市山木字白船山

築城時期　　文明年間（１４６９年~１４７８年）

築城主　　市原備前守真常が居城

説明　　白船城あった白船山は、かつては沼地に浮かぶ独立台地で、遠くから見るとそこに船のように見えたことから「白船山」という地名が付いたと言われている。

ここに文明年間に市原備前守真常という武将が居城していたと史実がある。

その近くには市原城と支城の能満城がある。

文明３年（１４３１年）に起きた八幡合戦に上杉顕定方に加わり、千葉氏と戦ったという史実がある。

白船城は、比高１５ｍ程の台地に築かれており、何か所かに切通しの道が見られるが堀切の跡と思われる。台地上は堀切によって大きく３つに分断され、その周囲には数段の腰曲輪を配置する構造になっている。周囲には「砂田」、「弁財天」、「祭田」という地名があり、湿地に浮かぶ要塞のような城館であったと思われる。

八幡　（やわた）神社・寺院・史跡文化財・城址　飯香岡八幡宮・海津見神社・庚申神社・八幡神社・神明神社　金刀毘羅神社・稲荷神社・日枝神社・猿田彦神社・無量寺・称念寺（浄土宗）・妙長寺・円頓寺（日蓮宗）・八幡陣屋

戦国期は八幡郷、江戸期は八幡村。古くは現在地の東方に位置し、石塚（伊静）村と称したが、移転して旧地を古屋敷と称したと伝えられる。

地名の由来は、飯香岡八幡宮に由来。同宮も元石塚に祀られていたが、後に御影山の地に遷座されたという。

慶應４年（１８６８年）の戊辰戦争の際には、市川・船橋方面から敗走してきた幕府軍が当地に集結し官軍と南新田で交戦、幕府軍は敗れて五所方面に逃走したという。

飯香岡八幡宮　（いいがおかはちまんぐう）

所在地　　市原市八幡字片町１０５７番地１

創建時期　　白鳳４年（６６４年）

祭神　　息長帯姫命・誉田別命・玉依姫

飯香岡八幡宮拝殿正面

神紋　　五七桐・菊

相殿　　猿田彦命・日本武尊・足仲彦命・経津主命・天穂日命・中筒男命・事代主命

由緒・伝説　旧県社。社殿によれば当地は往古、御影山と呼ばれ六所御影神社があったという。白鳳４年に勅使の桜町中納言李満卿、奉幣使の菅原時春卿が下向し、神殿を創建、一国惣社八幡大神宮と称したという。境外社の六所御影神社を元宮と呼び、往古は「御影」「石握（伊静とも）」の二地区から成っていて上総国惣社であったと伝える。元々は八幡宮の場所にこの神社が鎮座していたと言う。また日本武尊伝承があり尊が東征の際、六所御影神社で休憩した時、社人が食事を捧げたところ、飯の香りを賞したといい、それから「御影山」を「飯香岡」と呼ぶようになったという。柳楯神事があり、氏子が祭りの前日、柳の小枝２５本を並べて楯をつくり、古道を通り阿須波神社を経由、途中一泊して奉納する。祭典後、柳楯を先頭に五基の神輿が市内を渡御し、お浜下りをする。柳は古来神霊が宿る神聖な木とされ、楯も神招の道具であり依代となっている。境内に六所御影神社（伊弉諾命・伊弉册命・大日霊貴命・瓊々杵命・布留大神・大宮姫命・天照皇大神・若宮八幡宮（菟道皇子・大鷦鷯尊・呉比咩命・宇禮姫命）高皇霊貴命・天御中主命・菅原道真）神明宮（天照皇大神）厳島神社（市杵比賣命）八坂神社（須佐之男命）大鷲神社（天日鷲命）金刀比羅神社（金山彦命）浅間神社（木之花咲夜姫命）・山祇神社（大山祇命）ものがみの社（八衛彦命：八衛姫命）道祖神社（道祖之命）大杉神社（大国主命）・大鷲神社、飛鳥宮（天武天皇）がある。

八幡宮入口の燈篭と大鳥居

お参り前には手水鉢でお清めを

本殿と拝殿は国の重要文化財

お祭りで神楽が披露される神楽殿

拝殿入口の上には扁額

頼朝伝説に出て来る逆さ銀杏

御影山を示す石碑

富士山信仰の浅間様の供養塚

逆さ銀杏の伝承の案内掲示板

海辺大神

若宮八幡宮

天神宮

金刀毘羅宮

ものがみの社

高良大神

飛鳥宮

大神宮

稲荷神社　（いなりじんじゃ）

所在地　　市原市八幡１３２８番地
創建時期　不詳
祭神　　宇迦能魂命
宮司　　市川　一夫
由緒伝記　宝暦１２年の石燈篭や疱瘡神や
稲荷神社の石碑が本殿裏に鎮座

稲荷神社本殿と狐の狛

境内入口の鳥居と本殿の社

昭和１２年奉納された狐の狛

宝暦１２年の石燈篭と石祠

神明神社　（しんめいじんじゃ）

所在地　　市原市八幡北町３丁目９-１７付近
創建時期　不詳
祭神　　天照大神
宮司　　市川　一夫
由緒・伝説　昭和２９年の村田川の改修工事に伴い
現在の地に遷座された。養老川の堤防沿い
の道路に入った、木の脇に鎮座。

飯香岡八幡宮本殿　（国指定文化財）及び拝殿（県指定文化財）

所在地　市原市八幡字片町１０５７番地１

所有者　飯香岡八幡宮

種類　建造物

説明　「一国一社の国府八幡宮」と呼ばれる由緒ある古社で、創建は白鳳年間と伝えられています。

本殿は正面３間側面２間の総丹塗りや銅板葺きの屋根が印象的な入母屋造。太い木組みや組物、彫刻・面取り角柱などの部材は力強く簡素で、長禄３年（１４５９年）に足利義政の建立で、室町時代末期の特徴を示しています。県内の神社建築においても重要文化財に指定されているのは、佐原市にある香取神社本殿と本社のみです。

拝殿は、正面５間、側面３間の身舎に梁間３間の向拝庇が付き、本殿と同様に総丹塗りの建物です。幣殿によって本殿と接続される権現造りの形式をとっている。屋根は銅板葺きの入母屋造りで、正面に唐破風及び千鳥破風が付いている。細い木組み、彩色された海老紅梁・木鼻・蟇股（かえるまた）内彫刻など、本殿に比べて華麗であり、建築年代の差が見てとれます。現在の建物は、墨書によって元禄４年（１６９１年）に再建されたものです。かつては前面に遠浅の海が広がり、潮干狩りや海水浴客で賑わったものでしたが、昭和３０年代後半からの埋め立てによって現在の姿になった。

飯香岡八幡宮漆塗金銅装神輿（県指定文化財）

所在地　市原市八幡字片町１０５７番地１

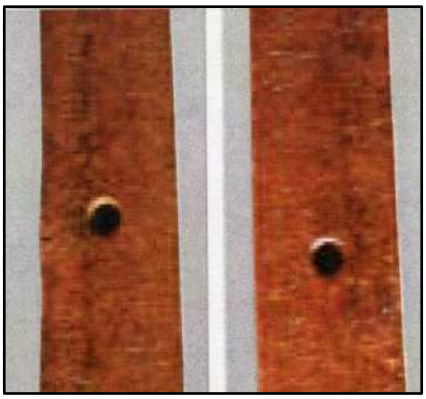
所有者　飯香岡八幡宮所蔵

種類　工芸品

説明　飯香岡八幡宮には、中世・近世現代の３代にわたり、一の宮・二の宮・三の宮・若宮の１２基の神輿がある。

その内中世の神輿は、照り起りのある宝形造の屋根や基台周辺の瑞垣を板玉垣にするなど、室町時代の建築、工芸様式を示しています。また、一の宮の天井板から発見された至徳元年（１３８４年）銘の墨書は、足利義満寄進であることも記されており、「飯香岡八幡宮由緒本記」の縁起と一致します。一の宮の神輿は、高さ１６５ｃｍ、幅１１４ｃｍ、屋根の４面に菊と桐の紋を交互に浮彫している。

大太刀　（市原市指定文化財）



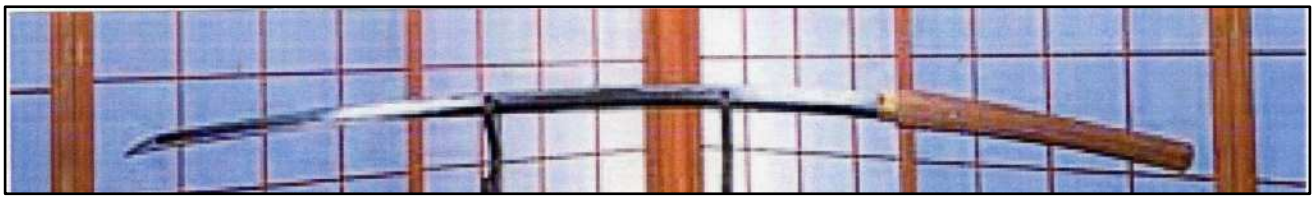
所在地　市原市八幡字片町１０５７番地１

所有者　飯香岡八幡宮所蔵

種類　工芸品

説明　全長１６３ｃｍ、刃長１３０ｃｍ、反り３，５ｃｍの奉納用の大太刀です。銘文に、天正２０年（１５９２年）８月１５日、本多弥八郎正綱が、大納言徳川家康の武運長久を祈って飯香岡八幡宮に寄進したものと記されている。正綱は、本多弥八郎正

信の事とみられ、八幡に５千石を領していた。
元禄１２年の「飯香岡八幡宮由緒本記」によると、平井和泉守の作と記されている。



当世具足１１領及び残欠一括　（市原市指定文化財）

所在地　市原市八幡字片町１０５７番地１
所有者　飯香岡八幡宮所蔵
種類　　工芸品
説明　　室町時代末期から江戸時代中期（１６世紀～１８世紀）の制作と思われる。当世具足とは、室町時代後期から安土桃山時代にかけての戦乱気に生まれた甲冑の事で、平安時代までの大鎧に比べて機能性を重視したものです。１１領については、ほぼ完全な形で残っており、工芸的にも研究上においても重要な飼料です。

六所御影神社　（ろくしょみかげじんじゃ）
所在地　　市原市八幡１０５７番地
創建時期　白鳳４年（６６４年）
祭神　　伊弉諾命・伊弉册命・大日霊貴命・瓊々杵命
　　布留大神・大宮姫命・天照皇大神・
宮司　　市川　一夫
由緒・伝説　白鳳４年に勅使・桜町中納言李満卿、奉幣使菅原時春卿が下向し神殿を創建、一国惣社八幡大神宮と称した。飯香岡八幡宮の本宮と呼ばれており、往古は「御影」「石握」（伊静とも）の二地区からなっていた。

六所御影神社の本殿の社

厳島神社　（いつくしまじんじゃ）
所在地　　市原市八幡１０２７番地
創建時期　不詳
祭神　　市杵比賣命
宮司　　市川　一夫
由緒・伝説　不詳

八坂神社　（やさかじんじゃ）
所在地　　市原市八幡１０３４番地
創建時期　不詳
祭神　　須佐之男命
宮司　　市川　一夫
由緒・伝説　不詳

山祇神社（別名石尊様）（やまつみじんじゃ）

所在地　　市原市八幡１１２４番地
創建時期　　不詳
祭神　　大山祇命
宮司　　市川　一夫
由緒・伝説　不詳

大海住神社（おおわたつみじんじゃ）

所在地　　市原市八幡１１７９番地
創建時期　　不詳
祭神　　大海住神
宮司　　市川　一夫
由緒・伝説　創建時期不詳。海の安全を祈り創建されたという。

庚申神社　（こうしんじんじゃ）

所在地　　市原市八幡石塚２－２
創建時期　　不詳
祭神　　猿田彦命
宮司　　市川　一夫
由緒・伝説　女千木。狛猿。旧石塚村に古来からあった創建年代不詳の古社。平成２３年に社殿修復。境内に稲荷大明神の石祠と庚申神（石碑）がある。

猿田彦神社　（さるたひこじんじゃ）

所在地　　市原市八幡３―１２
創建時期　　寛平６年に託宣により青野が原より飯香岡八幡宮に遷座されている。
祭神　　猿田彦命
宮司　　市川　一夫
由緒・伝説　飯香岡八幡宮本殿に合祀される猿田彦命の旧祠とされます。青野が原伝承地。
「飯香岡八幡宮由緒本記」によると、青野が原に鎮座している御神霊の託宣によると、大神は伊勢国五十鈴川の川上の猿田彦大神であるという。

猿田彦神社の旧祠

国家安泰・五穀豊穣・悪魔降状の為に出現したが、この場所が狭いので八幡大神に合祀してほしい。その神は相殿に遷座して猿田彦大神として、天児屋根命が作ったお面をご神体としている。このお面に関する伝承もあり、この地の者が伊勢神宮に参宮する際に、伊勢国の椿大社がお告げを下された。この時に鼻高のお面が海中に飛び込んだように思ったが、姿が見えなくなってしまった。人々が上総に帰国した後に、青野が原に光が溢れ、なんとも素晴らしい大神が現れたという。

別の伝承によると、海の置きから八幡宮を照らす光があり、人々は恐れて海に出なくなってしまった。そこで、３人の宿老が評議して海に船を出して確かめに行くと、海に光が満ちあふれていた。ここだと思われる場所に竿を突き刺すと、光が消え失せ波間にお面が漂流し、空に声が響き渡った。その声によると、声の主は船玉命（猿田彦命の別名）であるという。３人は不思議に思って、そのお面を持って国主である「日高弾正朝光」の元を訪れ、事の子細を告げたすると日高弾正も自分が見た夢と一致しているとして、多くの寄進をして八幡宮を再建した。

猿田彦神社入り口の鳥居

境内にある手水鉢（昭和４０年）

元禄六年奉納の庚申塔

信楽山宝樹院無量寺　（しがらきさんほうじゅいんむりょうじ）　浄土宗

所在地　市原市八幡字南新田２９番地
創建時期　白鳳年間の寛平２年という説もある
本尊　不詳
住職　藤原　円伯
由緒・伝説　白鳳年間の創建で、ご本尊は海中より現れた阿弥陀如来像宝樹坊がこの地に安置し創建した。境内墓地に千葉康胤・胤持親子の墓がある。一説には寛平２年の創建で、平高望が父・高見王の菩提寺として建てたと言われる。

無量寺の本堂全景

無量寺入口の山門と寺標

４面に地蔵像を廻らした供養塔

本堂入口と無量寺の篇額

龍燈山光明院称念寺　（りゅうとうさんこうめいいんしょうねんじ）　浄土宗

所在地　市原市八幡１４３０番地

創建時期　天正３年（１４６９年）安誉虎角上人により開山

本尊　不詳

住職　布施　英俊

由緒・伝説　称念寺は、かつては浄土宗の名刹として、本堂、観音堂、地蔵堂、その他諸堂を構え、永く檀信徒と共に宗祖法然上人の遺教を守り、口称念仏の法灯を継いでいたが、明治時代に至り度重なる火災に見舞われ、本尊や鐘楼堂を残し、その外の堂宇及び宝物類を焼失した。その後仮堂を建立して本尊は安置された。残った鐘楼も歳月の風雪に耐えかねて修復を図ったが、戦時下の為梵鐘や金属類は供出した。戦後平和の到来により、檀信徒の浄財と汗の奉仕により本堂が建立され、山門及び鐘楼を再建の機運が高まり再建された。

明治７～９年に八幡小学校があった。

また、孤児の世話をする施設として「上総同情園」があり、袖ケ浦保育所の前進施設でした。

称念寺の本堂正面

昭和５７年に再建された山門

山門と同じく再建された鐘楼

本堂入口と上部の篇額

称念寺本堂の内の祭壇

境内に設置された供養地蔵堂

本堂前の構える龍鬼像２基

泰廣山圓頓寺　（たいこうさんえんとんじ）　日蓮宗

所在地　市原市八幡１０１５番地

創建時期　文明元年（１４６９年）に日泰上人により開山

本尊　不詳

住職　山津　顕什

由緒・伝説　文明元年に飯香岡八幡宮神主市川刑部の息子の病を平癒に導いた心了院圓頓房日泰聖人により開山された。日蓮宗妙満寺派の寺院で、本行寺の末寺となっている。

円頓寺の本堂正面

圓頓寺境内入口の山門

境内にある日蓮上人石造

六道の苦しみを救う六地蔵菩薩

地福山満徳寺　（じふくざんまんとくじ）　真言宗豊山派

所在地　　市原市八幡１０８６番地１

創建時期　室町時代

本尊　　不詳

住職　　山口　勝男

由緒・伝説　満徳寺の墓地には、八幡公方足利義明と夫人のお墓がある。　足利義明は天文７年（１５３８年）第一次国府台合戦で北条　軍に敗れ戦死、遺骸は家臣によって一端小弓御所に運ばれ、小弓御所で自刃した夫人の遺骸と共に八幡の霊応寺（飯香岡八幡宮の別当寺であった）（のちの満徳寺）の境内に葬られた。その後五輪塔が建てられ、墓のそばにお堂を建て夫婦の像を祀り冥福を祈った。

近年建替えの本堂

左は境内入口の山門

右は足利義明の墓地

満徳寺不動堂内の石仏

参考資料　「飯香岡八幡宮由緒伝記」によると、正平１３年に八幡宮の神事であった流鏑馬の射手を務めていた円蔵、剃髪して円蔵坊源明として、境内に一坊を建てたが、それが後の霊応寺になったと伝えられる。霊応寺（別名若宮寺）及び末寺は、満徳寺のみを残し廃仏毀釈により消滅した。霊応寺の跡地には明治初期には神道中教院が入り、明治９年４月旧八幡小学校が入りました。

八正山妙長寺　（はちしょうさんみょうちょうじ）　日蓮宗

所在地　　市原市八幡９９８番地

創建時期　正長元年（１４２８年）に創建

本尊　　不詳

住職　　関口　尚久

由緒・伝説　妙長寺は、日行上人が開基となり正長元年に創建され、丸谷の妙長寺と久留里の妙長寺と共に三妙寺と称される著名な寺院でした。宝暦１３年（１７６４年）の火災により堂塔伽藍をはじめ由緒古書などを焼失、現存建物は庫裡一棟のみです。現在でも境内から礎石や銅板や木材が掘り出される。本堂左手にあるお堂の中に

妙長寺の新しい本堂

石造りの日蓮上人坐像が祀られているが、この坐像も火災の際にお堂と共に焼失し焦土に埋もれてしまったもので、昭和１１年に当時の住職が本堂下の土中から掘り起こしたものと聞く。

歴代住職の墓地

日蓮上人の石仏を祀る建物

境内入口の題目を記した石柱と南無日蓮大菩薩と記した石柱

八幡陣屋　（やはたじんや）

所在地　　市原市八幡字仲町

創建時期　　貞享３年

建築主　　大久保　忠高

説明　　八幡陣屋は、江戸時代の陣屋跡です。貞享３年（１６８７年）に大久保忠高が一万石を拝領し、設置したものと言われている。その後、堀　正直一万石の陣屋となったが、元禄１１年（１６９９年）に越後に移封されたのでこの陣屋は廃されたという。

陣屋のイラスト（参考資料です）

陣屋跡は、八幡宿の駅のすぐ西北のあたりで、かつては土塁や郭の一部が残っていたが、市街化の為に現在では遺構を見ることは出来ない。

その他の旧跡、名所

● 胴埋塚（どうまんづか）

千葉家の宗家争いに際し、馬加（まくわり）城主千葉康胤が敗走し、この場所で自刃したと言われています。首は持ち去られ胴体は雁田川（がんだがわ）沿いに葬られ、胴埋塚と呼ばれています。

● 飯香岡八幡宮社務所脇の庚申塔（安永２年）は、道標も兼ねており「左かさもり道　右たかくら道」としるされている。元々は、飯香岡八幡宮ではなく、薬湯センター側にあった。

● 教育会館の所にある石碑は、「旧南総学校跡地」です。明治１７年、千葉県皇典講究分所が設立され、当初は千葉神社の境内にあった。その後、皇典講究所の所員であった「川上南洞」の尽力により、明治２３年１１月１０日に飯香岡八幡宮内に皇典講究所を移転し、その後に旧南総中学校を開設された。

本資料は、次の資料を参考に作成しました。

・市原市埋蔵文化財センター遺跡ファイル
・ちょっと便利帳（日本の元号・年代早見表）
・全国遺跡報告総覧
・日本の城郭・城址（千葉県版）
・八百万の神
・市原市・宗教法人一覧
・市原市八幡地区の遺跡と文化（市原市地方史研究連絡協議会）
・市原の城郭と国府跡をたずねて
・Wikipedia-　市原郡
・八幡宿寺々
・飯香岡八幡宮御由緒伝記

・そのほかに、紹介した寺院・神社の関係者の方々の協力を頂きました。

八幡地区の地名の由来と史跡と文化財

発行・編集　市原の歴史を知る会

住所　市原市能満 1020 番地 1

連絡先　０９０－３５４５－１１１３